

テキスト	マタイによる福音書 1章18～25節
子どもカテキズム	問23
参照教理問答	ウェストミンスター大教理問答 問41, 42 ハイデルベルク信仰問答 問29, 31

問23 主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答 イエスとはお名前で「罪からの救い主」、キリストとはお働きを表し、「神さまから油を注がれた方」という意味です。このお方が私たちの主として与えられました。ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

【KEY1 聖書本文を語る】

[STEP1] 聖書本文を読む。マタイ1章18～25節

[STEP2] この個所のテーマは何か？

(カテキズムとの関係を考慮) イエスは民を罪から救うためにお生まれになった。

[STEP3] この個所はテーマをどのように展開しているか？

主の天使がヨセフに、婚約者マリアの胎の子は、聖霊によって宿ったのであり、民を罪(神から離れること)から救うことが告げられる。それはインマヌエル(神が共にあること)の実現である。ヨセフはマリアを迎え入れ、生まれた子をイエス(主は救い)と名付けた。

【KEY2 神の福音を語る】

[STEP1] この個所で神は何をされているか？ご自身について何を表しているか？

神は、聖霊によってマリアに救い主を身ごもらせた。ヨセフに天使を遣わして、救い主を与え、預言者を通して約束していたことを実現すると告げられた。

[STEP2] 前後の節／章は、神について何と言っているか？

マタイ福音書の最初には、系図が記され、神がアブラハムから始まるご自身の民と共に歩まれたことが示されている。神は、その歴史の中で約束された救いを実行に移されようとしている。続く2章では、東方の学者たちにイエスの誕生が知られることによって、その救いが民族的ユダヤ人

に限られているのではないことが示される。

[STEP3] 聖書全体を通しての神の働きに、この個所はどのように関係しているか？

人間を創造し、共に歩むことを願われた神は、罪に墮してご自身から離れていった人間を救い出し、共にいること(インマヌエル)を回復するためにイエスを遣わされる。それは神の国の完成の始まりである(黙示録21:3)。

【KEY3 子ども達の信仰と生活のために語る】

[STEP1] この個所を最初に聞いた人たちの必要は何だったか？

メシアの約束を知りつつも、ローマ帝国の厳しい支配の下で、神から見捨てられたように困難な現実の中で生きていた。

[STEP2] 私たちの教会の子ども達に似たような必要があるか？

神から離れた歩みが当然である社会の中にあって、生ける神が共にいてくださることを実感することは難しい。

[STEP3] この聖書箇所「その時」から、私たちの教会の「今」へ橋をかける。

神から離れ、罪に捕らわれている私たちを救い出し、神のもとへ連れ戻すイエス・キリストが与えられた。生ける神がお働きになり、永遠であられるお方が世に来られた。主の民の歴史において約束されていた救いが、現に実行された。

※テモテ指導者訓練「聖書的説教」モジュールを参考に項目を立てました。(大西良嗣)

テキスト マタイによる福音書 1章18～25節
子どもカテキズム 問23

【単元のねらい】

子どもカテキズム問23は、イエス・キリストという名前について教えています。聖書箇所として指定されたマタイ1章18～25節には、「イエス」という名前が「罪からの救い主」であられることを伝える言葉があります。この箇所には「キリスト」という呼び名に関することは触れられていませんので、「罪からの救い主」のほうを中心に語ることになります。

罪や救いについては、これまでのカテキズムでも教えられてきました。今回の聖書箇所には「インマヌエル」(神は我々と共におられる)ということに触れられていますので、説教展開例では「罪からの救い」が神と共にいることの回復であることを軸にしながら語ってみました。

救い主イエスさま

【イエス・キリストの名】

みんなは、自分の名前がどんな意味だか知っていますか？ 日本人の名前には、意味があることが多いですね。お父さん・お母さんが、思いを込めて、みんなの名前をつけてくれたことと思います。

実は、イスラエルの人たちの名前にも、意味があることが多いんです。聖書の中に出てくる人の名前には、意味があるんです。全部の人について名前の意味がわかるわけではありませんが、旧約聖書の中には、こういう意味でこの人の名前をつけましたということが、たくさん出てきます。

実は、イエス・キリストというお名前にも、意味があります。どんな意味だか知っていますか？

イエスというお名前は、「主は救い」という意味です。さっき読みました聖書の個所で、天使がヨセフに「その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」と言っていました。イエス様は、私たちを罪から救ってくださるお方だから、「主は救い」イエスという名前が付けられたのですね。

「キリスト」というお名前は、イエス様のお父さん、お母さんが付けた名前ではありません。「油を注がれた者」という意味で、イエス様のお働きのことを表しています。

【罪からの救い】

神様は、世界を造られ、そして人間のことも造られました。神様は、人間が神様と一緒に生きていくことを願っていらっしゃいました。けれども、人間のほうは、神様に背いて、神様を裏切り、神様から離れて行きました。そのために、かえって、不安になったり、思い悩んだり、争ったりして、余計な苦しみを味わっています。神様から離れて、罪に捕らわれてしまっているのです。神様のところに、自分の力で帰ってくることはできません。

神様は、人間が御自分のところに、もう一度戻ってきて、一緒に生きていくことを願っていらっしゃいます。そのために、イスラエルの民を選んで、ご自身の民とされ、その民と一緒に歩いて来られました。そして、その中から、イスラエルの民ばかりでなく、全世界の人々を救うお方を与えてくださると約束してくださいました。

天使がヨセフのところに来て知らせてくれたのは、「今まさに、その約束を神様が実行されるんだよ！」ということでした。「マリアのお腹の中にいる赤ちゃんこそ、全世界にいる御自分の民を罪から救うお方なんだよ」という知らせでした。神様から離れて、罪に捕らわれている人間たちを、神様のもとに連れ戻して、もう一度、神様と一緒に生きることができるようになってくださるお方が

お生まれになる。だから、「その子にイエス〈主は救い〉と名付けなさい」と言われているんだね。

その天使の言葉を聞いた時、ヨセフはどんなふうに感じたかな？ そのころ、イスラエルの人たちは、ローマ帝国に支配されていて、とってもたいへんな生活をしていただろうと思います。ヨセフも神様を信じていたけれど、本当に、神様が自分たちと一緒にいてくださっているのか、実感はなかったかもしれない。

でも、天使が現れて、ヨセフはビックリしたでしょうね。神様は確かに生きていらっしゃる！ そのことがよく分かったはずですが、そして、約束してくださっていた「救い主」を、今こそお与えになるのだと教えてもらいました。神様は確かに、自分たちを見捨てることなく、共にいてくださるお方なのだと、よく分かったことでしょう。イエス様こそ、神様が私たちと一緒にいてくださるこ

とを、実際に示してくださったお方です。

学校に行くと、イエス様を信じているお友だちは、そんなに多くないだろうと思います。ここでも神様が一緒にいてくださるのか、良く分からないと思うことはありませんか？

でも、イエス様がお生まれになったということは、神様のほうが、世界に生きている私たちのところに来てくださったということです。イエス様に救われた私たちは、世界中のどこにいても、神様と一緒にいることができるようにされています。罪から救い出されて、神様のもとに連れ戻していただいたのです。

イエス様というお名前は、神様から離れてしまっていた私たちを救ってくださったお方であることをよく表しています。イエス様は、神様が私たちにお与えくださった「罪からの救い主」です。

(大西良嗣)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 1章21節後半

「その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」



〈ねらい〉

イエスという名前の意味を考える。

〈展開例〉**1. 名前には意味がある**

子どもが生まれた時、お父さんやお母さんは、名前を何にしようかと考えます。たとえば空のように広い心の人になってほしいと「空」という名前をつけたり、桜の花のようにかわいい子どもになってほしいと「さくら」という名前をつけたりします。

そんなふうには名前には、お父さんやお母さんの願いが込められているんですね。(子供たちの名前の意味を保護者から聞いておき、話し合ってもよい)

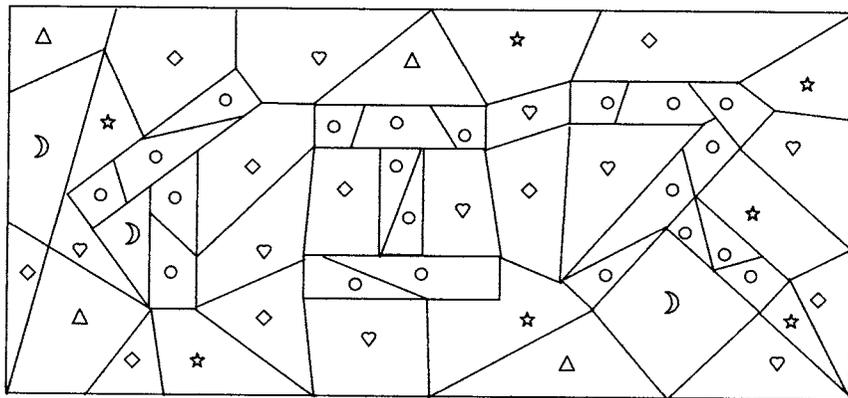
2. イエスという名前の意味

では、「イエス」という名前にはどんな意味があるのでしょうか。

この名前は、お母さんのマリアとお父さんのヨセフがつけた名前ではありません。イエス様が生まれる前に、すでに神様が決めておられた名前です。

4. ぬりつぶしゲーム

二人一組になる。一人ずつ、下の同じ絵を渡す。二人でじゃんけんをして勝った方が、○のブロックを一つずつぬりつぶすことができる。○を全部ぬり終わった人の勝ち。さて、なんという字が出てくるかな？



す。

この名前には神様の願いが込められているのです。

それは、人間を救いたいという神様の願いです。イエスという名前は「神は救う」という意味なんです。

3. 救いとは？

「救う」とってどういう意味かわかりますか？ 救うとは、苦しんでいることから助けることです。じゃあ、苦しんでいることっていったい何なのかな？ イエス様は何から私たちに助けてくれるのかな？

それは、重くて重くてたまらない罪を、私たちに代わって背負ってくださるということです。

私たちは毎日、毎日、この罪に苦しめられています。そしてこの罪のせいで、お友達をも苦しめています。この重くて暗い罪を背負ったまま、天国に行くことはできません。

でもイエス様が来てくださって、私たちの罪を代わりにぜんぶ引き受けて、十字架にかかってくださいました。イエス様は罪からの救い主です。

〈ねらい〉

イエス・キリストがその名の通りの働きをしてくださったことを理解してもらう。それから、イエス・キリストという名前をきちんと理解する。「イエスが名字で、キリストが名前」というのではない。イエスが名、キリストは働きの名前。

〈展開例〉

1. 今日の「子どもカテキズム」問23をみんなで読んでみましょう。

2. みんなの名前にはどんな意味がありますか。

3. イエス様の名前と、私たちの名前で違うところを考えてみましょう。

イエス様の名前は神様がつけてくださいました。(他に、「イスラエル」も神様がつけた名前です。) イエス様のなさるお働きを、名前が表しています。

4. ○の中をうめてみよう。

イエス＝「○○は○○○」

(答え：しゅはすくい)

聖書を読んで確認しましょう。マタイ1章18～25節。

キリスト＝「○○○を注がれた者」

(答え：あぶら)

イエス・キリストは名字と名前ではありません。名前と働きです。

5. 「主は救い」という意味のイエスという名前を父なる神様が付けてくださいました。

主とは誰でしょう。神様です。

救いとは何でしょう。罪からの救い、です。

イエス様は、このお名前のおりに働いてくださいました。イエス様がなさったことは、すべて、私たちを罪から救うためでした。

イエス様はどこに来たのでしょうか。火星でしょうか。土星でしょうか。私たちのいる地球に来てくれました。イエス様は神様だからどこにでも行けるのに、私たちのところへ来てくれました。不思議なのは、神様に対してイスラエルの民は良いことをしていたわけではありません。何をしていたか、調べてみましょう。マラキ書1章6～8節。

さて、これはどういう意味でしょう。ここにはイエス様が来られる以前にイスラエルの民が神様を軽く見て、罪を犯していたことが書かれています。

しかし、人が罪深くて、イエス様を送ってくださいました。どうしてでしょう。はるか昔に神様がイエス様を送ると決めてくださっていたからです。ミカ書5章1節を開いてみましょう。

イエス様は私たちのところへ来てくれました。そして、私たちのもとの、私たちの罪を代わりに背負って、私たちの罪を赦してくれました。それが十字架の死でした。

イエス様と呼ぶ時、どんな気持ちですか。イエス様と呼ぶごとに「主は救いだ。本当に主は救いだ」と思い出すことができます。私たちも「イエス様」とお呼びするとき、「主は救い」と思い出してお呼びしましょう。

〈祈り〉

イエス様がお名前のおりに、私たちを罪から救ってくださいありがとうございます。そのことを忘れることがありませんように。



1. 「子どもカテキズム」問23

問 主イエス・キリストとお呼びするのはなぜですか。

答 イエスとはお名前で「罪からの救い主」、キリストとはお働きを表し、「神様から油が注がれた方」という意味です。このお方が私たちの主として与えられました。ですから、私たちは、喜びと感謝をもって主イエス・キリストとお呼びするのです。

○子どもと一緒に考えるポイント

- ① イエス様こそ、人を罪から救い出すことのできる唯一のお方。
- ② 私たちは、真の神様を名前で呼ぶことができる。

2. 罪からの救い

説教では「イエス」という名前が「罪からの救い主」であるということを教えられた。ここでは、罪と救いについて一緒に考えてみたい。

Q1 自分は罪人（罪深い）だと思ったことがありますか？ またそれはなぜですか？

Q2 イエス様は私たちが罪から救い出すことができる方。それが信じられますか？

○イエスという名に見出す救い

「名は体を表す」ということわざがあるように、名前は人やその物をわかりやすく表現している。私たちの名前も生れてくる時に、お父さんやお母さんが一生懸命考えてくれたもの。ところで、イエス様の名前は神様御自身がつけられた。しかもその名の意味は「罪からの救い主」。なんとストレートでわかりやすい名前。神様は御子を名付けるときから、私たちが罪から救うのだと約束し

てくださっていた。

でもどうだろう、あなたは心のどこかでイエス様の救いは自分とは関係のないこと、はるか昔の夢物語のように感じてしまっているところはないか。実際、筆者が子どもの頃は、聖書の語る罪や救いには無頓着、無関心だった。でも、そんなあなたに向かっても神様は語り続けている、「インマヌエル、神は共におられる。インマヌエル、わたしはあなたと共にいる」と。神様のことがわからない人こそ、罪からの救いが信じられない人こそ、神様にその思いをぶつけて祈ってほしい。神様は必ずあなたに答えてくれる。

3. 親しい神

真の神様を名前で呼ぶことのできる素晴らしさを一緒に分かち合いたい。

Q3 あなたの周りの大人や年上の人を名前（ファーストネーム）で呼ぶことはありますか？

Q4 真の神様を名前で呼べるというのは素晴らしいことだと思いますか？

○名前を呼べる幸い

相手の名前を呼べるというのは、親しい関係にあるからできること。神様は、全てのものを造り、治め、その頂点に立たれている方。人間的に考えると、そのような方を親しく名前で呼ぶなどということは恐れ多くできない。でも神様は私たちが神様の名を呼び求めることを喜ばれる。（エレミヤ書3章3節、マタイ18章20節等参照）

私たちの神様は頂点に立つ方だけど、同時に、全ての人が親しく名前で呼ぶことを喜び求めてくださる方。こんなに気前の良い神様、自ら人に近づいてきてくださる神様は、ほかにおられるだろうか。



(中学生の皆さんに、キリストの道の急所をつかんでほしいと願って、この原稿を書いています。対話の起点にしてください。)

イエス様は、私たちを罪から救い出して、神様のもとに連れ戻してくださる方であることを覚えましょう。

例えば、こんな話を考えましょう。あるところに一人のコソ泥がいました。この人は、元来、王の一族に連なる高貴な者でした。しかし、幼い時よりわけあって親からはぐれてしまったため、自分がすばらしい者であって、王様と共に国を良く治めるといふ重大な使命を持っていることも、まったく知りません。自分はずっとコソ泥だったし、コソ泥のままだと思っています。それどころか、自分が悪いことをしていることも知らないのです。だれも教えてくれなかったからです。

でもある時、一人の人がやってきて言いました。あなたはこんな風に、惨めなままでもいい人ではない。あなたは王様と共に生きる人であって、王様から大切な働きを任せられる人です。あなたがしていることは悪いことです。あなたにはふさわしくないことです。ただちにやめなさい。さあ、私といっしょに王様の家に帰りましょう。

イエス様はそんな風に、私たちを探してくださって、来てくださって、連れ戻してくださる方です(ザアカイの物語を参照)。

私たちはイエス様と出会わなければ、自分が罪人だということも分からないくらいに、落ちぶれてしまった罪人です。自分で自分の罪に気づく人はいません。イエス様が気づかせてくださいます。

イエス様の教えから、私たちは自分の罪を知ります。あるいは、イエス様のようになれない自分を知って、自分の罪を知ります。愛のない自分を知ります。信仰のない自分を知ります。

でもイエス様は、そんな罪深い私たちを、本当に大切にしてくださいます。その命を身代わりに与えてくださったほどに、私たちが大切だと思ってくださいます。そうやって大切にされて始めて、私たちは「このままではいけない」と思い始めます。

ぼくはコソ泥のままでもいい存在じゃないのだ。イエス様にこんなに愛されているのだから……。こうして罪から神への方向転換=悔い改めが始まります。

そしてイエス様は、私たちに本来神様から与えられていたすばらしさを回復してくださいます。そしてこれからは、罪と戦い、神様のために生き、神様とともに神の国のために働くという、すばらしい目的を与えてくださいます。こうして私たちは、古いコソ泥の私から生まれ変わるのです。愛のない自分から、愛そうとする自分になります。悪と戦うなど考えたことのなかった自分から、戦うために小さな勇気を出そうとする自分になります。

これが、罪からの救い=解放ということです。まだ私たちには罪が残っているから、完全には罪から自由にはなれません。でも、罪を罪と知り、それと戦いはじめた人は、もう罪から救われている人です。イエス様は、そういう救いを私たちに与えるために、生まれて来てくださいました。

